



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2022年6月1日（第90号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL（88）6639 FAX（88）3231

2022年度総会を開催します

6月19日（日）午後2時

宇治田原町総合文化センター研修室1

エコパートナーシップうじたわらは、住民・事業者・行政が協働で「宇治田原町環境保全計画」を推進するため平成16年に設立された団体で、環境学習やエコクッキング、会報誌の発行などの活動を行っています。

新型コロナウイルスの感染拡大により2年連続で書面による総会としていましたが、このたび3年ぶりに総会を開催することとなりました。総会後は一般向けの講演会も開催しますので、お気軽にお越しください。

参加者には「京都府生物多様性フィールドノート」を贈呈します（数に限りあり）。

- ・講演：テーマ「ボトル to ボトル事業について」
- ・講師：別所尚紀氏（城南衛生管理組合エコ・ポート長谷山 所長）



城南衛生管理組合エコ・ポート長谷山とは？

宇治市、城陽市、八幡市、久御山町、井手町と宇治田原町が設立した一部事務組合が城南衛生管理組合で、構成市町から搬入された一般廃棄物を処理しています。

銘城台からくつわ池に向かう道沿いに同組合の処理施設があり、その一角のエコ・ポート長谷山で資源化物（ガラスびん、缶、ペットボトル、紙パック）を処理しています。同施設では住民の方を対象にリサイクル工房でガラス教室などを開催し、衣服などを格安で譲渡するコーナーも併設しています。

再出発

過去にも書かせてもらったが、現在起こっている現象を見て、地球温暖化の進行に疑問を挟む人も少ないだろうが、さらに深掘してみれば、環境問題が根っこでつながり、負の連鎖として、地球にのしかかっているのがわかる。二酸化炭素を放出しすぎた代償として、晴天になれば気温が異常に上がり、熱中症で救急搬送される人が後を絶たない。

雨が欲しいと雨ごいすれば、地上付近にある暖かい空気が上昇し、たっぷり力を蓄えた水蒸気が短時間で強い雨となり、被害をまき散らす。

海に目をやると、海水温が上昇し、水蒸気を好物とする台風が巨大化し、列島を襲う。

こんな折、人間の叡智を結集し、環境と開発の共生を目指すSDGsや二酸化炭素減少の切り札「カーボンニュートラル」に取り組み、温暖化の進行を食い止める動きをスタートさせようとした途端、水を差される、だれも経験したことのないコロナの攻撃。

コロナに脅かされて3年になる。現在も感染が終息したわけではなく、日々新たな感染者が発生している。

しかし、忘れてはならないのは、こんな時期であっても、温暖化は確実に進行していること。

心を落ち着け、こんな時だからこそ、今我々に何ができるのかを考え、地球温暖化防止、再出発の年にしたいものである。

エコパートナーシップうじたわら会長 芦原 昇

末山・くつわ池自然公園へのいざない

岩瀬剛二（エコパートナーシップうじたわら運営委員、元鳥取大学、帝京科学大学教授）

今回は、皆様もよくご存じだとは思いますが、町内にある観光スポットの一つ、「末山・くつわ池自然公園」について、管理者とともに、筆者が中心となって進めている新たな試みを紹介いたします。

「末山・くつわ池自然公園」、通称、くつわ池（写真1）は、宇治田原町ホームページの観光案内にも書いてあるように、指定管理部分約 3.2 ha を含む全体約 27 ha の敷地内に4箇所のキャンプ場やバンガロー（現在閉鎖中）、バーベキュー場、釣り堀（現在閉鎖中）、散策路などが整備され、自然を満喫しながらアウトドアを楽しめる場所となっています。宇治田原町の西の端に位置し、宇治市や京田辺市にも近く、都市近郊のオアシスとして人気があるようです。



写真1. くつわ池の案内板

1) 植物生育マップの作成

どのような植物がどこに生育しているのか、今のところ、十分な情報がありません。そこで、現在、園内を歩き回って植物を調べ、植物生育マップの作成を進めています。樹木の生育マップ作成を優先させていますが、草本についても徐々にではありますが進めており、いずれ、園内の花や実の見どころマップを作って、随時公開していく予定にしています。例えば、4月初めころには、アケビの花が見られました（写真2）。普段見ることができない野生植物（特に花）を見ることは、アウトドアの楽しみの一つになってくれると期待しています。



写真2. アケビの花

2) 自然ガイドツアーの企画

これまでは、公園側で準備したアクティビティーは無く、来園者の方たちが自ら楽しんでおられました。今後は、季節に応じて、春は野草の、夏から秋には昆虫やきのこ（写真3）、冬は野鳥の観察など、様々なガイドツアーの企画を考えています。そのためには、園内の植物生育マップの作成は欠かせません。すぐには始められませんが、今年度中には開始予定で準備を進めています。



写真3. くつわ池のオオキツネタ

3) 面白体験アクティビティーの企画

公園内に現在あるものだけでなく、新たな自然体験アクティビティーのために、様々な準備を進めていく予定です。例えば、

マツタケやトリュフの栽培（写真4）、マイタケやヒラタケなどのきのこの山の中での栽培（写真5）、宇治田原町



写真4. 黒トリュフ



写真5. 御林山で栽培したマイタケ



写真6. キッコウハグマ
普通の花と咲かないまま種子をつくる閉鎖花の両方を持つ

内に生育しているちょっと変わった特徴を持つ面白植物園（写真6）など、筆者のこれまでの経験を生かして、他の公園にはないような面白いアクティビティーを企画中です。これは、3つのうち、最も準備に時間がかかる内容なので、企画自体は早くても来年度、あるいは2年後からとなりそうですが、何とか実現したいと思っておりますので、乞うご期待。

キャンプ場自体も管理者が周辺環境整備を進めており、今後、ますます人気が高まっていくと思われる「くつわ池」、町内の皆様も、一度訪れてみてはいかがでしょうか。エコパートナーシップでも、自然環境学習会の実施を検討しています。

エコパートナーシップうじたわら事務局（宇治田原町建設環境課内）

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場HP「MENU（くらし・手続き）」⇒「生活・環境」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原

